

キラリ看護部



Vol.2

地域包括ケア病棟 について

回復期病棟 看護師長

左田野 由紀

「地域包括ケア病棟はどんな患者さんが入院するの?」と耳にすることがあります。当院の地域包括ケア病棟は2014年10月に開設し、今



年で8年目を迎えました。そこで、今回は地域包括ケア病棟についてご紹介します。

当病棟の病床数は41床で、看護師21名、介護福祉士3名、看護アシスタント1名で患者さんのお世話をしています。多職種と連携し在宅復帰に向けての療養やリハビリを行い、必要な方には介護サービスや訪問診療、訪問看護の調整、家屋に手すりをつけるなどの環境調整を行っています。また、介護者のご都合による一時入院も行っています。

当病棟に入院される方は近年高齢の方が多くなっており、9割は80歳以上の方です。そのうち約半分の方が90歳以上で、100歳を超える方もめずらしくありません。認知機能や身体機能が低下した高齢者は、希望通りにご自宅に帰ることができず、入院をきっかけに施設に入所される方も少なくありません。しかしながら、できるだけ患者さんやご家族の希望に添えるよう、多職種で知恵を出し合って支援しています。

第44号より、看護部の連載が始まりました!このタイトルは看護師ならだれもが知っている、川島みどり先生の本「キラリ看護」を参考にさせていただきました。よろしく願います。

先日、こんな患者さんがおられました。一人暮らしの高齢の患者さんで、自宅への退院を強く希望されていましたが、病気を心配されたご家族の不安が強く、なかなか退院先が決まりませんでした。しかし、リハビリを続けていくうちに、杖で歩行できるまで回復し、身の回りのことはほとんど自分でできるようになりました。患者さんの「うちに帰りたい!」という強い思いにスタッフも心を動かされ、外泊を試みたり、繰り返し話し合いをすることで、自宅への退院が現実となっていききました。願いが叶った自宅退院、ご家族の理解と協力があってのことですが、患者さんご家族の思いを大切にした結果だと思っています。



最後に、今後も患者さんとご家族の思いをしっかりと聞いて退院支援を続けていきたいと思えます。患者さんが回復して笑顔になっていく姿こそが、私たちスタッフのやりがいです。これからも患者さんとご家族への支援を通して、「キラリ輝く看護!」を目指します。

